

# 第1回京都山城便教会

平成26年11月2日（日）

11月2日（日）、京都府山城地域にある宇治田原町立維孝館中学校にて、第1回京都山城便教会を開催させていただきました。8月に鍵山教師塾に参加をし、そこでいただいた思いと覚悟、そして一歩踏み出す勇気を持って第1回を迎えました。今回は、京都掃除に学ぶ会の皆様や兵庫・大阪・奈良の先生方が応援に駆けつけてくれ、18名で活動を行いました。

この京都山城便教会は、山城地域の学校でトイレ掃除を行いながら、先生方とのつながりを深め、人格を磨き、そして地域に感謝の気持ちを表すことを目的とし、先生方が気付いたことや感じられたことを実践を通じて児童・生徒に返していくことを目標としており、開会式ではその思いを伝えさせていただきました。また、その主旨をより深く理解していただくために、DVD「掃除の道」を視聴し、リーダーを務めていただく大谷先生からお言葉をいただきました。大谷先生からは、

- ①トイレ掃除を行うまでの準備や、その後の片づけをしていただける方がおられるからできる活動であること
- ②道具を大切に扱うことは、児童生徒を大切に扱うことにつながる
- ③便器を磨く時もそうであるが、物を受け渡しするときも両手を使うこと
- ④自分の思いだけが先行してしまうと、まわりを傷つけてしまっていることがあること

を教えてくださいました。

それらを受けて活動に入りましたが、今回トイレ掃除に初めて参加された4名の先生を、ベテランの方が温かくサポートし、それに応えるように一心にトイレ掃除に向かっておられる姿勢が、場の一体感を生み、トイレという空間の空気がガラッと変わっていただきました。トイレは見る見るきれいになっていき、それに比例して、皆様の笑顔が増え、場の雰囲気は凛と澄んでいきました。



< Before >



< After >





閉会式では、参加いただいた皆様から気付きや感想を述べていただきました。

「強くこすっていると取れなかったものが、軽くこすった時にすっと取れた感覚は体験しないと分からない。生徒にも無理強いをするのではなく、寄り添ってあげることも大切だということに気がきました。」

「〇〇しなさい。もっとこうした方がいいと言われるより、こうするともっと良くなるよと言われた時の方がやる気が出ました。きっと生徒もそんな風を感じていると思うので、明日から意識して言ってみます。」

「答えを教えるのは簡単だけれども、それだと思えない。いかに気付くか、気付けば考えることができる。そんなことを常に考えて指導していこうと思います。」

トイレ掃除を始める前は、現場での「不安」や「悩み」を抱えられていた先生方が、トイレ掃除で気付いたことを通じ、それらを「課題」として捉え、明日からの「目標」へと変えておられました。決して、悩み相談に来られたわけではないのですが、トイレと向き合ううちに自分と向き合われ、自分で答えを出されたのだと感じます。そのためか、トイレ掃除が終わった後は、皆様清々しい笑顔で、明日を見つめておられました。



今回の活動はここで終了し、散会致しましたが、京都掃除に学ぶ会の皆様の活動はまだ終わっていません。使った道具を倉庫まで運び、タオルを洗濯し、スポンジやたわしを消毒する作業をされるのです。倉庫に着くと、参加された方以外に、片付けだけのために3名の方に来ていただき、お手伝いいただきました。それぞれに多忙な方ばかりなのですが、志ひとつで、こうやって支援していただく姿勢に感動し、さらには「第1回京都山城便教会、おめでとうございます」とチラシ寿司を作っていただき、皆様でお祝いをしていただきました。感無量です。こんな方々と、ご縁をいただき、幸せな1日を過ごさせていただきました。こんな気立てのいい生徒が育ち、お互いを支え合うような学校・社会ができれば、本当に幸せだな。それが、私の明日からの目標となりました。今回、京都山城便教会に、ご参加いただいた方、ご支援いただいた方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(小笹 大道)

